



Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

2025年6月期 通期決算説明資料

フィーチャ株式会社（東証グロース4052）

2025年8月14日

1. 通期決算サマリー
2. 2025年6月期（通期）決算概要
3. 各事業の進捗状況
4. 成長戦略と2026年6月期業績予想

Appendix

本資料の数値はすべて連結ベースで記載しております。

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

1. 通期決算サマリー
2. 2025年6月期（通期）決算概要
3. 各事業の進捗状況
4. 成長戦略と2026年6月期業績予想

Appendix

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

売上高

497 百万円

前年度比 ↑ 0.7%

営業利益

▲ 9 百万円

前年度比 ↓ 5百万円

主要ハイライト

- ▶ **売上高は過去最高を更新**
↳ 大手自動車メーカーとの共同開発案件の開始により増加
- ▶ **第1四半期：大手自動車メーカーと共同開発契約を締結**
↳ DMS領域の中長期の開発連携に合意。次期開発フェーズにおける協議進行中
- ▶ **DX-AI事業を拡大**
↳ 当期より大手製造業・教育関連企業へのライセンス提供を開始し、新規事業分野の収益基盤を強化

2026年6月期見通し

- モビリティ事業を主力としつつも、生成AI市場の急成長を背景として、DX-AI事業の拡大に取り組んでいく方針
- 2026年6月期は、売上高540百万円（前年度比+8.7%）、営業利益17百万円（前年度比+26百万円）の見通し

1. 通期決算サマリー
2. 2025年6月期（通期）決算概要
3. 各事業の進捗状況
4. 成長戦略と2026年6月期業績予想

Appendix

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

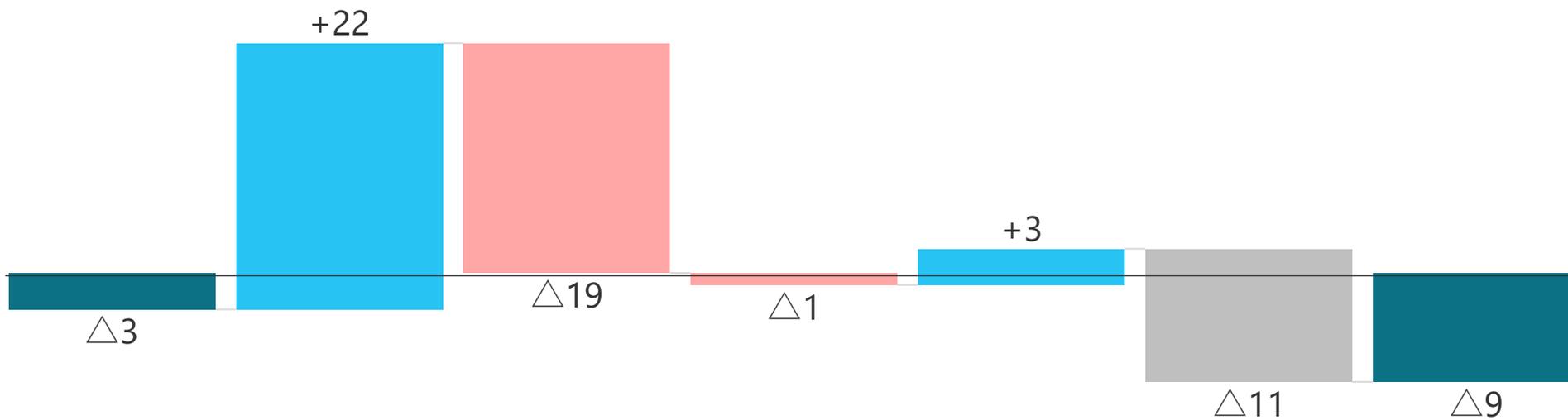
- 受託開発収入は、大手自動車メーカーとの共同開発案件の開始により増加
- ライセンス収入は、一部取引先との契約上のボリュームディスカウントの適用により減少
- 長期的な成長見通しは維持しつつ、会計上は、保守的に固定資産の減損損失を計上

(単位：百万円)

	2024年6月期	2025年6月期			
	前期実績	当期実績	前期比	当期予想(※)	予想比
売上高	494	497	+0.7%	491	+1.2%
うち、受託開発収入	316	339	+7.2%	339	±0.0%
うち、ライセンス収入	177	157	△11.0%	152	+3.8%
売上原価、販管費	497	506	+1.9%	502	+0.9%
うち、人件費	304	305	+0.5%	306	△0.1%
うち、経費	199	195	△2.0%	197	△1.1%
うち、仕掛品振替	△5	5	—	△1	—
営業利益	△3	△9	—	△10	—
経常利益	△2	△10	—	△12	—
親会社株主に 帰属する当期純利益	△7	△38	—	△15	—

受託開発収入の増加があったものの、利益率の高いライセンス収入の減少により赤字幅はやや膨らむ

(単位：百万円)



2024年6月期
営業利益

受託開発収入
の増加

大手自動車メーカーとの
共同開発案件等の影響

ライセンス収入
の減少

ボリュームディスカウント
による影響

人件費の増加

大幅な増減なし

経費の減少

大幅な増減なし

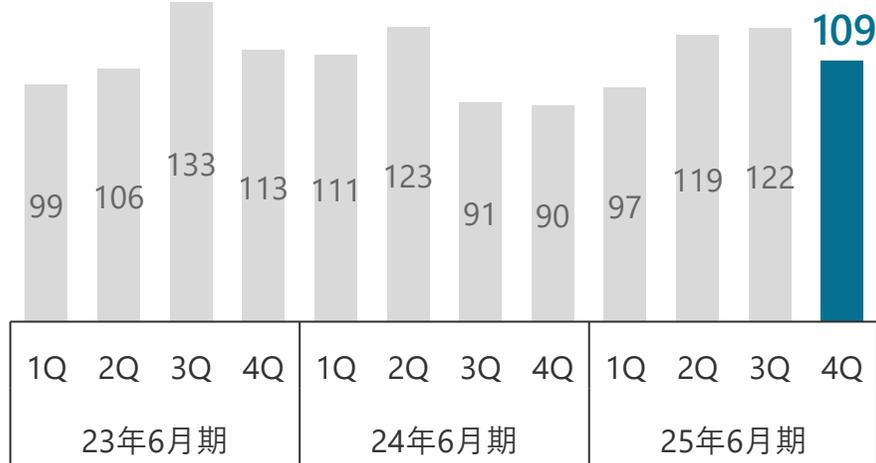
仕掛品振替

前期案件との納期の違い

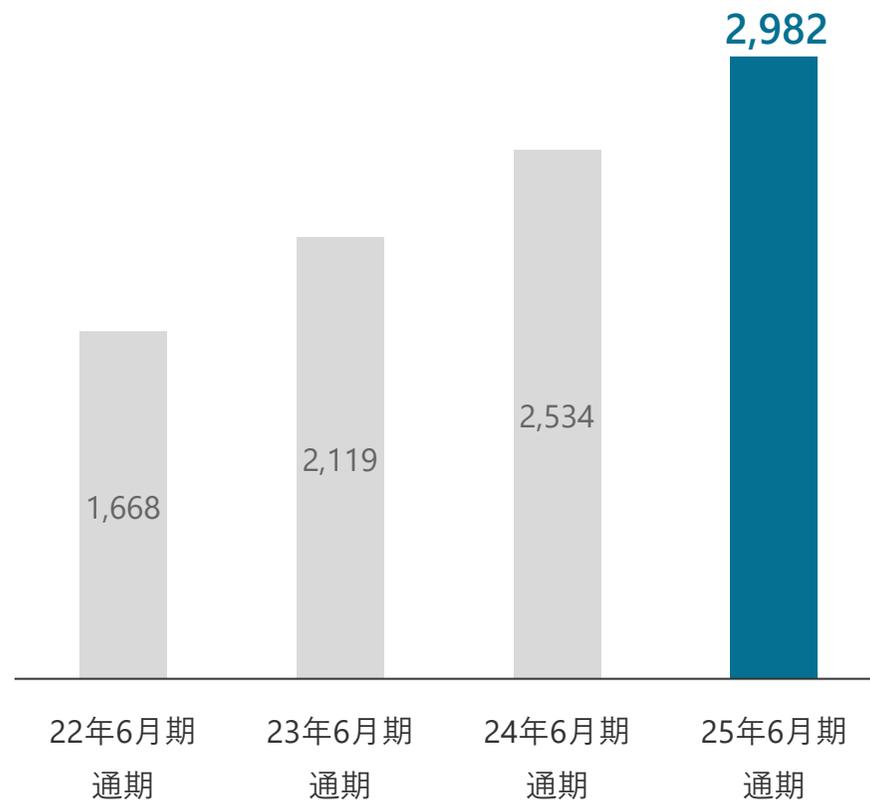
2025年6月期
営業利益

当社ライセンス収入については、契約上のボリュームディスカウントで減少したものの、当社ライセンス製品の量産台数は堅調に推移

四半期別量産台数 (千台)



累計量産台数 (千台)



減損を計上したものの、自己資本比率90%以上と高い財務健全性を維持

(単位：百万円)

	2024年6月期末	2025年6月期末	
	前期実績	当期実績	前期末との差異
流動資産	698	689	△8
現金及び預金	578	594	+15
売掛金及び契約資産	93	79	△14
その他	26	15	△10
固定資産	69	30	△38
資産合計	768	720	△48
負債合計	38	30	△7
純資産合計	729	689	△40
負債・純資産合計	768	720	△48

1. 通期決算サマリー
2. 2025年6月期（通期）決算概要
3. 各事業の進捗状況
4. 成長戦略と2026年6月期業績予想

Appendix

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

2026年6月期より「Mobility Solutions」と「DX-AI Solutions」へ事業区分を変更

Before

モビリティ事業

車載カメラ及びドラレコ向けの画像認識ソフトウェアを開発

スマートインフラ事業

モビリティ事業で培った技術をインフラ向けに応用

DX事業

高精度AI-OCRや軽量でマルチモーダルなLLMにより、企業の様々なDX化を支援

After

Mobility Solutions

-  ADAS 先進安全支援システム
-  DMS/OMS ドライバー/乗員監視システム

DX-AI Solutions

-  AI-OCR 文字認識／文書解析AI
-  Drawing-AI 図面解析AI
-  AIインテグレーション
-  AIコンサルティング

Mobility Solutions

車載カメラ及びドラレコ向け画像認識ソフトウェア
低計算コストかつ優れた精度、カスタマイズ性により、
多数の自動車メーカー、ドラレコメーカーに採用



ADAS 先進安全支援システム

前方車・歩行者衝突、交通違反などの危険運
転をリアルタイムで判定し、事故防止を支援



DMS/OMS ドライバー/乗員 監視システム

ドライバーの運転状態を監視し、危険運
転・事故防止を支援

DX-AI Solutions

自社開発の画像認識モデルとLLMにより、あらゆる
文書・図面を瞬時に理解
柔軟なカスタマイズで現場フローにフィットし、業務
効率を飛躍的に向上



AI-OCR 文字認識／文書解析AI

高精度文書認識・自動データ抽出



Drawing-AI 図面解析AI

建設・製造業向け図面自動解析・データ化



AIインテグレーション

コア基盤技術を用いたAI開発



AIコンサルティング

AI導入の上流から下流までトータルサポート

ソリューションを支える当社の基礎技術



画像認識



ディープ
ラーニング



コンピュータ
ビジョン



エッジAI



LLM



RAG

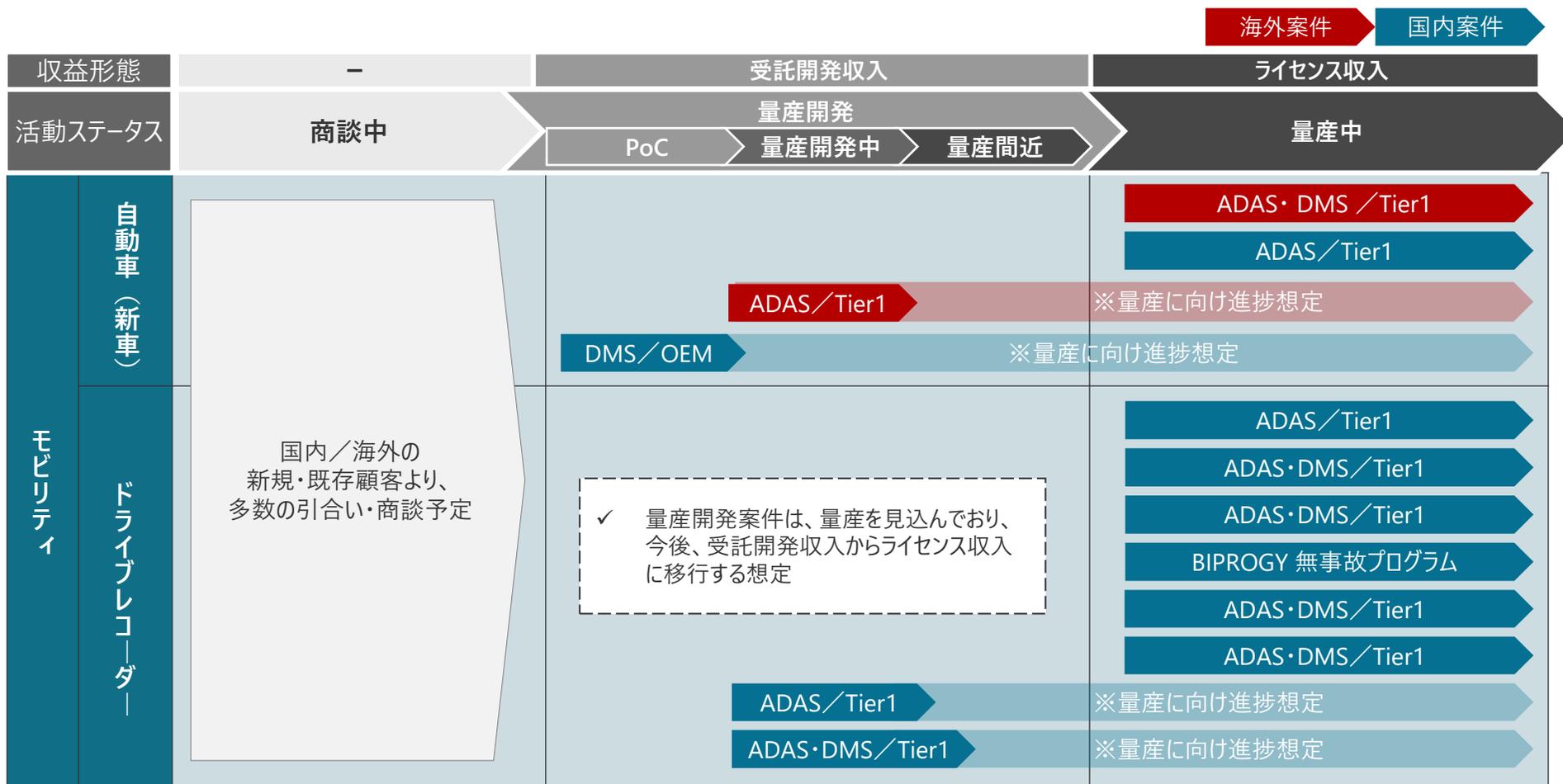


Agent



アプリ開発

量産に向けた案件を複数開発中、長期的なライセンス収入の積み上げを実現



単純なAI-OCRだけでなく、画像認識技術や大規模言語モデル（LLM）を用いたDXソリューションを展開

25年6月期の主な新規受注案件



受注先

大手製造メーカー

大手教育関連会社

案件概要

FAXによる非定型注文書のデータ化、自動抽出機能及び一定のロジックに基づいたデータ加工、システムへの転記

学生の手書き答案用紙につき、AI-OCRでデータ化し、採点作業を効率化

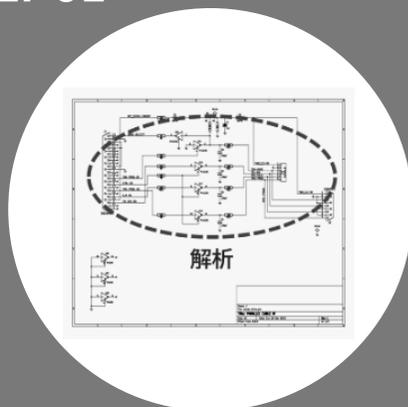
進捗状況

- 開発完了、ライセンス提供済み
- 26年6月期は、同グループ内での別のDX案件を受注
- 今後も複数の案件獲得に期待

- 開発完了、ライセンス提供済み
- 26年6月期についても継続見込み

回路図AI解析ツールをリリース

STEP01



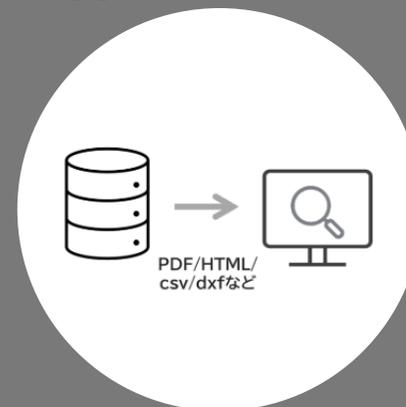
図面上の部品と結線を自動検出

STEP02



接続関係を認識し、
自然言語での意味理解

STEP03



型番・注釈・記号種類・類似画像
などで検索可能

【回路図AI解析ツール】で解決すること

AI-OCR × 図面認識 × 構造化知識エンジンを組み合わせることで、業務効率化を実現します。
PDF・JPG・PNGなどの主要フォーマットに対応し、専用UIで回路とメタ情報を可視化します。

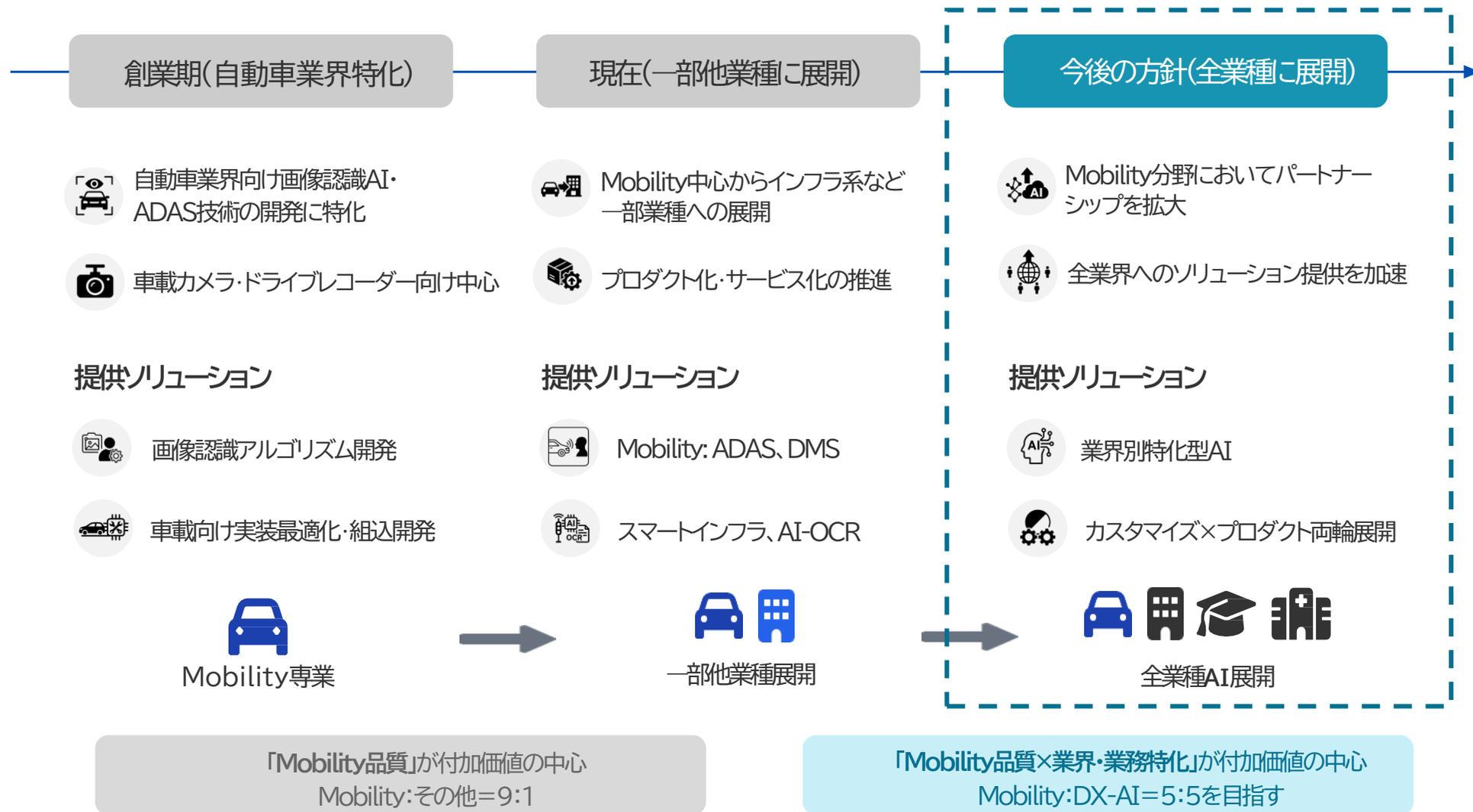
1. 通期決算サマリー
2. 2025年6月期（通期）決算概要
3. 各事業の進捗状況
4. 成長戦略と2026年6月期業績予想

Appendix

Make Things Intelligent

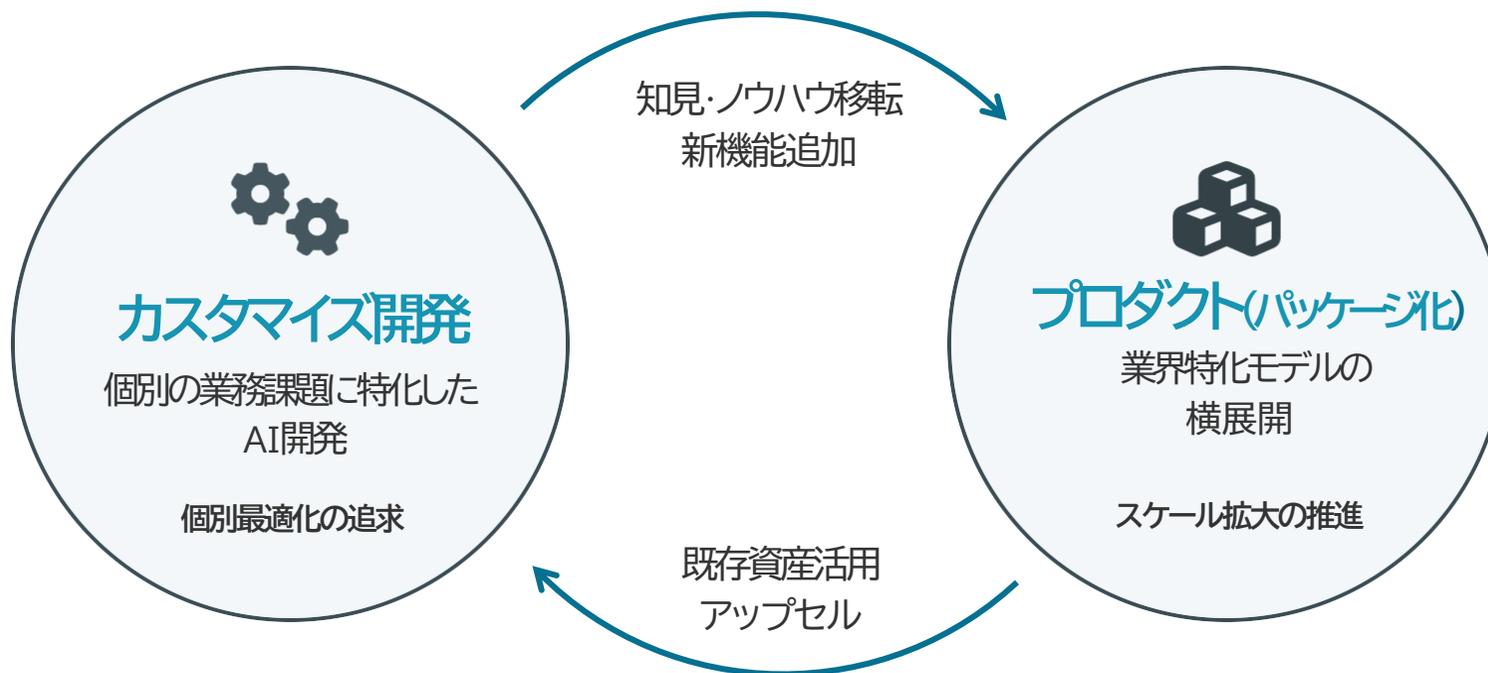
あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

モビリティ分野で培ったAI技術を横展開し、他業種展開スピードを加速



2つのビジネスモデルを両輪とすることで、品質と拡張性を両立

カスタマイズ開発からプロダクトへの知見移転を加速させ、業界特化型ソリューションのラインナップを拡充



カスタマイズ開発の強み

- 業界先進企業の深い課題に対応
- 高付加価値の実現
- 新たな業界知見の獲得

プロダクト(パッケージ化)の強み

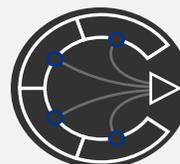
- 導入スピード・コスト効率の向上
- 多様な業種・規模への対応
- ストック収益モデルの構築

自動車業界で求められる最高品質基準に適合したプロダクトを、多様な産業へと横展開することで、新たな成長機会を創出



軽量・高性能な画像認識技術

世界規模のベンチマークテストで1位を取得した高い技術力×ローエンドSoCでも搭載可能な実装性



ADAS量産開発経験とノウハウ

多数の量産開発実績、蓄積されたノウハウを駆使し、信頼性の高いソリューションをご提供



顧客ニーズに応じた迅速な対応力

長年培ってきた経験からお客様の課題・ニーズに対して最適な技術提案とカスタマイゼーションが可能



多国籍なエンジニア

多国籍かつ多様性に富んだエンジニアチームを擁しており、世界中から優秀なエンジニアが集結

自動車品質が他業界にもたらす価値

自動車業界で求められる高品質だからこそ他業界でも最高レベルの品質を提供可能

安定稼働・リアルタイム性・低消費電力が当たり前の自動車業界の厳しい基準を全ての製品開発に適用



- 受託開発収入は、大手自動車メーカーとの共同開発案件及びDX-AI Solutionsの需要増から増加見込み
- ライセンス収入は、ドラレコ製品の生産サイクルが終盤を迎えやや減少見込み
- 投資回収フェーズへ移行し、来期は黒字化を見込む

(単位：百万円)

	2025年6月期	2026年6月期	
	当期実績	翌期予想	当期比
売上高	497	540	+ 8.7%
うち、受託開発収入	339	395	+ 16.4%
うち、ライセンス収入	157	145	△8.0%
売上原価、販管費	506	523	+ 3.3%
うち、人件費	305	323	+ 5.6%
うち、経費	195	200	+ 2.6%
うち、仕掛品振替	5	—	—
営業利益	△9	17	—
経常利益	△10	17	—
親会社株主に帰属する当期純利益	△38	14	—

1. 通期決算サマリー
2. 2025年6月期（通期）決算概要
3. 各事業の進捗状況
4. 成長戦略と2026年6月期業績予想

Appendix

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や安心、効率に貢献します

社名	フィーチャ株式会社
代表者	代表取締役社長CEO兼CTO 曹暉
住所	東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 19F
創業年月	2005年8月
資本金	383,506千円 2025年6月末現在
従業員数	41名（非正規 14名） 2025年6月末現在
事業内容	画像認識AIソフトウェア開発 / 販売

代表者略歴

2007	名古屋大学大学院情報科学研究科知能メディア専攻博士課程修了 博士（情報科学）取得 独立行政法人理化学研究所入所
2008	豊田中央研究所にて物体認識に関する研究開発に従事
2012	当社入社、画像認識事業立上
2017	代表取締役CTO就任
2023	代表取締役社長CEO兼CTO就任（現任）

- 2019年からモビリティ関連の量産開始、現在までに累計ライセンス台数290万台を突破
- OEM、Tier1とのパートナーシップをはじめとした、複数顧客との共同開発を実施
- 2020年から、事業多角化を見据え、応用技術の活用によるスマートインフラ事業やDX事業に参入

→当社の技術力や実用性が評価され、ライセンス台数・顧客数ともに着実に拡大中



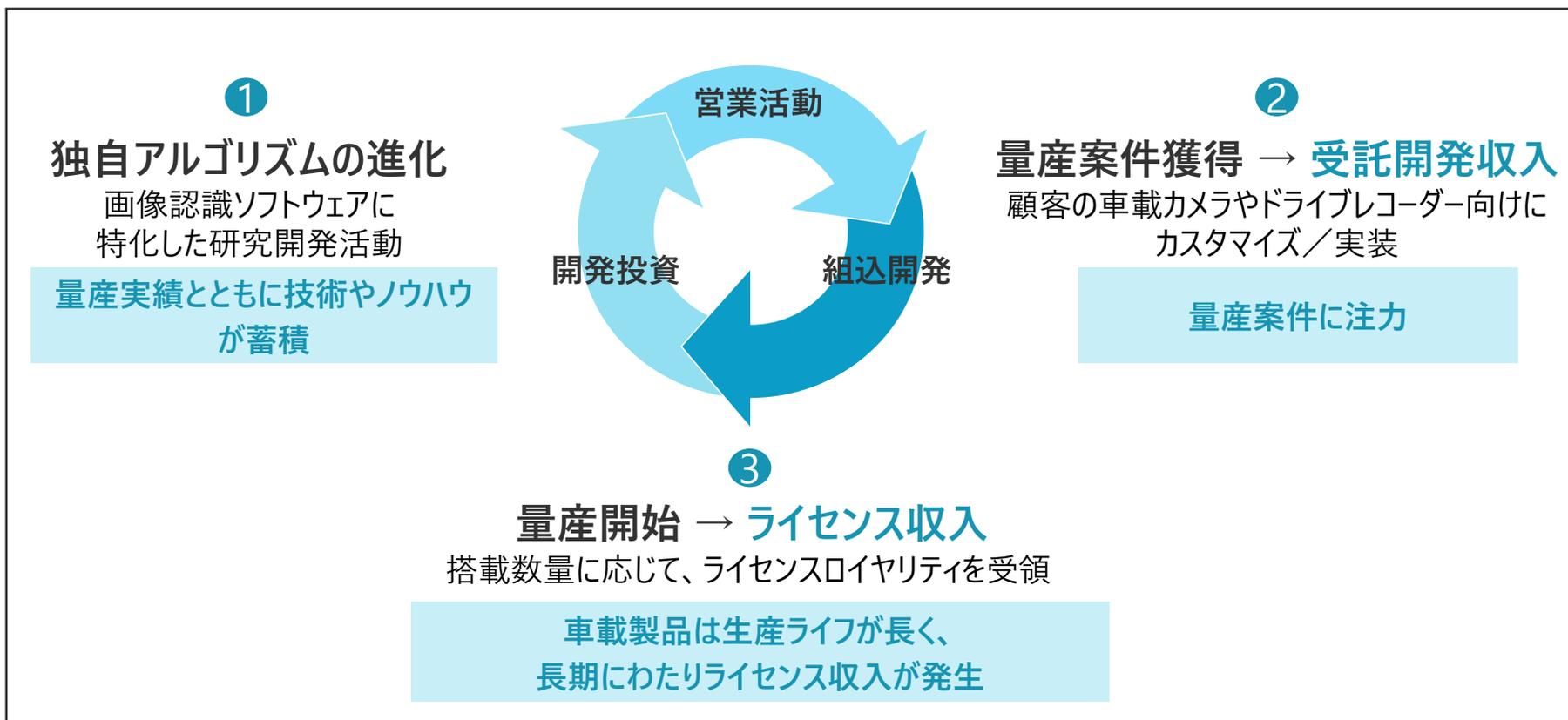
- 国内外の自動車メーカー量産案件に、当社技術提供済み
- 現在も複数のADAS及びDMS案件が量産開発中

※各年度、6月決算

量産中 案件	No.	1	2	3	4	5	6	7	8	
	取引先	国内Tier1	BIPROGY(株)	海外Tier1	国内Tier1	国内Tier1	国内Tier1	国内Tier1	国内Tier1	国内Tier1
	案件概要	ドラレコ用 ADAS	ドラレコ用 ADAS	車載カメラ用 ADAS・DMS	ドラレコ用 ADAS・DMS	ドラレコ用 ADAS・DMS	ドラレコ用 ADAS・DMS	車載カメラ用 ADAS	ドラレコ用 ADAS・DMS	ドラレコ用 ADAS・DMS
	開始時期	2019年	2019年	2019年	2020年	2021年	2021年	2021年	2023年	2023年

- 量産案件に注力した活動プロセスによって、長期ライセンス収入の実現を推進
- 多数のライセンス製品を積み上げていくことで、加速度的な成長が可能な収益構造
 - ✓ 当社売上高のうち、約30%がライセンス収入（ライセンス収入の利益率100%）
 - ✓ 量産前提案件に注力し長期的なライセンス収入を狙う（量産案件の車載製品はライフサイクルが長い）

$$\text{売上高} = \text{受託開発収入} + \text{量産台数} \times \text{ライセンス単価}$$



当社グループは、持続可能な開発目標（SDGs）達成のために、社会貢献が不可欠であると認識しています。現在、SDGsの全17ゴールのうち、特に関連が深い、以下の2ゴールを優先ゴールとして特定しています。

優先すべきゴール



▶ 当社ソフトウェアを世に広め安心・安全に貢献

世界的なエコロジー社会の形成の一環として、自動運転に注目が集まっており、当社グループとしても、画像認識技術に更に磨きをかけ、社会の安全性や快適性及び効率化に貢献していきます。

▶ 次世代技術の開発促進

世界的な技術の発展の潮流の中、当社グループとしてもイノベーション創出機会の促進に向け、社内の研究開発の環境づくり、外部ステークホルダーとの連携に注力していきます。

(単位：百万円)

	2024年 6 月期				2025年 6 月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	90	129	161	112	120	126	157	93
うち、受託開発収入	44	77	118	76	83	87	115	53
うち、ライセンス収入	46	51	43	35	36	39	41	39
※売上原価	23	43	51	43	46	45	51	36
売上総利益 (粗利率)	67 74.1%	85 66.1%	109 67.9%	68 60.8%	73 61.4%	80 63.8%	106 67.5%	56 60.6%
※販管費	92	81	75	84	81	80	73	91
うち、研究開発費	33	27	24	30	30	29	24	40
営業利益 (営業利益率)	△25 -	3 2.9%	34 21.1%	△16 -	△7 -	0 0.1%	32 21.0%	△35 -

※原価 + 販管費合計	116	125	127	128	127	126	124	128
うち、人件費	73	73	77	79	80	74	74	75
うち、経費	53	49	47	49	46	51	48	48
うち、仕掛品振替	△10	2	3	△1	0	1	0	3

本資料は、当社の業界動向及び事業内容について、現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。

これらの将来展望に関する表明の中には、さまざまなリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。

当社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

本資料における将来展望に関する表明は、本資料公表日現在において利用可能な情報に基づいて当社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。

IRに関するお問い合わせ先

フィーチャ株式会社 管理部

E-Mail : management@ficha.jp